

会 議 結 果

会議名 (審議会等)	令和4年度 第2回高砂市子ども・子育て・若者会議
開催日時	令和5年2月13日(月) 18:30~19:40
場 所	高砂市役所 分庁舎1階大会議室
会議公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開 (傍聴者定員数: 3 人) (傍聴者数: 0 人) <input type="checkbox"/> 非公開 (非公開理由: (例) 情報公開条例第7条の規程に該当するため。等)
事務局 (担当課)	健康子ども部 子育て支援課 (TEL 079-443-9024)
議 題	(1) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策の見直しについて (2) 高砂市子どもの生活に関するアンケート調査について (3) その他
出席委員	委員19名(欠席1名)
結 果 (議事録又は議事概要)	
発 言 者	内 容
事務局	<p>みなさんこんばんは。本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。宜しくお願いいたします。</p> <p>開会に先立ちまして、本日の会議資料の確認をお願いいたします。当日配付しております資料一覧表に記載しております資料をご確認ください。</p> <p>事前配布資料といたしまして、令和4年度第2回高砂市子ども・子育て・若者会議次第、次に令和4年度第2回高砂市子ども・子育て・若者会議配席図。次に、資料①高砂市子ども・子育て・若者支援プラン(中間見直し)、資料②高砂市子どもの生活に関するアンケート調査についてこの4点が、事前配付となっております。</p> <p>そして、当日持参といたしまして、「高砂市子ども・子育て・若者支援プラン」というところでございます。</p> <p>お手元のない資料がございましたら、事務局までお申し付けください。宜しくお願い</p>

事務局	<p>いたします。</p> <p>1 開 会</p> <p>それでは定刻となりましたので、これより令和4年度第2回、子ども・子育て・若者会議を開催いたします。開会に先立ちまして、当会議の公開についてですが、高砂市審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして、公開とさせていただきます。</p> <p>また、本日の傍聴者はございませんでした。</p> <p>それでは議題に入る前に、本日の委員20名のうち17名が現在ご出席いただいております。2名の委員につきましては、後程来られるというご連絡をいただいております。また、1名については欠席のご連絡をいただいております。</p> <p>出席者数が過半数になりましたので、「高砂市子ども・子育て・若者会議条例」第6条第2項により会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。これより、会議の進行は委員長にお願いいたします。委員長よろしくお願いたします。これまで進行にご協力をいただきましてありがとうございました。それでは委員長宜しくお願いたします。</p>
委員長	<p>それでは議題に入りたいと思います。</p> <p>議題（1）「教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策の見直しについて」を事務局から説明をお願いします。</p> <p>2 議題</p> <p>（1）教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策の見直しについて</p>
事務局	<p>【事務局より、高砂市子ども・子育て・若者支援プラン及び資料①に基づいて説明】</p>
日坂委員長	<p>事務局から説明が終わりました。</p> <p>ただいまの説明について、ご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。</p> <p>何かございませんでしょうか。</p> <p>資料①12頁の一時預かり事業のところなのですが、お尋ねしたいところがございます。一時預かり事業の、幼稚園型ですね。これは1号認定で、在園児の方が延長し</p>

<p>委員</p>	<p>て、保育を延長するというような形でございます。</p> <p>公立の米田子ども園の委員にお聞かせいただきたいのですけれども、この量の見込みと、確保の内容と実績の見直しで減少傾向があったのですが、園の現状ですね、どのようになっているのか、教えていただけますでしょうか。</p> <p>園としましては、色んな子ども園で利用が増えている減っているということは把握はしてないのですけれども、保護者の方はよく利用されています。何かが原因で減っているということではないと思います。</p> <p>1号認定のお子さんが、お母さんの就労に伴って2認定にかかわれるという場合があるので、そのあたりで減ってきているのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>無償化ということで、1号認定から2号認定へと移られる方が多いということが、考えられるということですね。</p> <p>また、一時預かり事業の一般型で、これは未就園の0歳から5歳までのお子さんを預かるということです。米田西保育園の委員に聞かせていただきたいのですけれども、今度は実績が増加傾向にあるということなのですが、園の現状ですね、どのような状況になっているのか、教えていただけますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>米田西保育園の一時預かりでは、基本的に0歳1歳児の利用が増えております。やはり3歳から5歳児はこども園や幼稚園の方に就学されているので、基本的にやっぱり0歳1歳が多いということと、やはり入りたい園に入れないうちにお子さんが、希望する園に入るまで利用するだとか、あとは、加古川市の方で、どうしても待機児童が出て、そこを利用できない方は、こちらの方を利用するという傾向もあり、増加している傾向になっております。</p>
<p>委員長</p>	<p>特に0歳1歳が多いということですね。</p> <p>高砂市のお子さんだけでなく、加古川市のお子さんも来られているんですね。</p> <p>特に高砂市では3歳から5歳児が98%就園されているということなので、未満児というのでしょうか、0歳1歳2歳において利用される方が多い傾向になったということですね。その理由としては、入りたい園に入れなかったり、というような。</p>

委員	<p>出産のために、少しの間利用される方もいらっしゃいます。</p>
委員長	<p>利用しやすくというと大変ですけども、未就園児の保護者の方も、一時的な預かりは、気軽にこられるような雰囲気というのはあるのでしょうか。</p>
委員	<p>そうですね、園の見学の方に来られた時に、必ず一時預かりの方も見ていただいています。やはり子育てで疲れている保護者の方が多いということもありますし、コロナの影響で、なかなかいろんなところに出られなくて、他のコミュニケーションがとれる場所がなかったりということがあります。また、4月からの入園に向けて、小さい集団に慣れるために、やはりこの年明けからは利用が増えるというところもあります。</p>
委員長	<p>体験保育のような、ちょっと慣れてから行くというようなお子さんもいるんですね。様々な理由で利用されているのですね。ありがとうございました。</p> <p>美保里こども園の委員、状況を聞かせていただいてよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>うちの場合は、一時預かりというよりも入園してしまう子が多いのと、やはり令和2年度からはコロナ禍になりまして、園内でも流行ってましたので、なかなか受けたくても受けにくい状況でした。職員が感染していたりする中で、お子さんを預かるのもどうかないところで、コロナがちょっと落ち着いた間に預かったり、試行錯誤しながら実施しております。他の園と同じように、預かる場合は0歳から3歳児が多いです。</p> <p>一時預かりを利用して、気に入ったら入所される方も多いので、その後の一時預かりの利用がなくなることもあります。一時預かりだけではなく、子育て支援も行っていますので、そのような中で気に入っていただければ入所というかたちになりますね。</p>
委員長	<p>令和2年度、3年度と大変だったと思うのですが、今年度は少し落ち着いてきて一時預かりも増加はしてきているのでしょうか。</p>
委員	<p>うちの園ではそこまで増加はしてないですね。やはり心配な部分もあるようです。令和5年度になれば、5類になりますし少し緩和されることを願っています。</p>

委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>引き続き議題を進めて参りたいと思います。</p> <p>議題2、高砂市子どもの生活に関するアンケート調査について を、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>(2) 高砂市子どもの生活に関するアンケート調査について</p> <p>【事務局、資料②に基づき説明】</p>
委員長	<p>事務局から説明が終わりました。</p> <p>ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問ございましたらお願いします。</p> <p>先程、高砂市の子育て世帯の生活実態調査の関係機関・団体対象調査においてですね、子どもたちや子育て世帯に関わりが深い機関、団体の皆様にヒアリング調査を実施されて、そのお話をいただきました。</p> <p>では実際にヒアリング調査を受けられました、米田小学校の委員のお話を聞かせていただいてよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>この高砂市子どもの生活に関するアンケート調査につきまして聞き取り調査も含めて、実際に協力をしました。その中で今報告にもありましたように、この調査の目的が子どもの貧困対策、一般的に貧困対策と今言いますと、経済的な貧困、これを第一に思い浮かべると思うんですけども、やはり実際の状況からしますと、経済的貧困はもとより、心の部分での貧困というのが、いわゆる同じぐらい、最近の傾向としてウェイトを占めてきているように思います。</p> <p>特に保護者の関わりも含めて、連鎖的というような報告中の言葉がありましたように、いわゆる子供たちの貧困の状況の中で、その親御さんの世代が適切な子育てのモデルを知らない。またそれがずっと続いてきている中で、実際に子どもに影響している部分があるということ、それが一つ。</p> <p>それからもう一つは、OECDの調査でも、最近非常によく言われてることなんですけれども、今言われました自己肯定感、ここについては、やはり非常に課題があるように思います。もう少し言い換えますと、自己有用感、この部分について、やはりOECDの調査の通り、実際子どもの学校現場で見ているとその自己肯定感・自己有用感の部分に非常に課題があるように思います。</p>

	<p>そこから発生する二次的な障害、それから特に問題行動が非常にあるような部分が見受けられる場合もあります。</p> <p>実際に保護者の方との連携をとりながら、子どもへの対応をするのですが、なかなか日々の生活の部分で精一杯で、連携がとりにくかったり、また子どもに対して適切な支援を受けられないという部分があるかと思います。子どもに向き合う最前線がやはり園であり学校だと思います。</p> <p>その中で、教育委員会も含めた行政支援の必要性というのが、今後、この調査をもとに、是非ともお願いをしたいと思います。以上です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、子ども食堂の委員、よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>僕もこの高砂市の子どもに関するアンケート調査に、ヒアリングで参加させてもらったのですが、実際に子ども食堂に来ている子どもの中に、貧困に関係しているのだろうか、という子どもは沢山います。</p> <p>今ちょうど受験シーズンですので、会話の中で、本当は高校行きたいのだけど、お母さんお父さんがお金を持ってないから働かなあかんねやろうなあっていうことを聞いたことがありますし、中学校に入ったら部活動をやりたいのだけど、ラケットを買ったり、シューズ買ったり、道具を買ったりすることができないから部活動できない、と言っている子もいます。そういう面からも、自己肯定感が低く、自分を下げてしまっている部分はあるんじゃないかなあとと思います。</p> <p>自分の置かれている立場が低いと、自分自身で思ってしまった部分があって、どうしてもやりたいんだけどできない、ということをするような子が多いなと感じています。以上です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>やはり自己肯定感という、そのキーワードが浮かぶのですが、子どもの環境によって、肯定感が下がっていくというようなことが、大きく問題になっていることがわかります。</p> <p>それから学童保育をされています委員の方からよろしくお願いいたします。</p>

<p>委員</p>	<p>「高砂キッズ・スペース」というところで、学童保育所を市内の小学校等でさせていただいています。</p> <p>ヒアリングの時にお話させていただいたことの中には、先ほど発表の中にもあったように、学童保育は結局、親が選択するものなのです。だから親の都合で辞めさせられてしまうっていう部分があります。もちろん貧困もあるし、虐待もあります。一番ひどいと感じたのは、毎日のお迎えが邪魔だからやめる、と言われたことです。子どもだけで帰るのではなく、毎日学童保育所お迎えに来てもらうんですね。それがもう邪魔だから、という親の都合で、やめると。子どもたちの友人関係といった世界がそこに構築されるのに、その一言で、その世界がなくなってしまうということがショックでした。</p> <p>その子どもは当時で小学校3年生か2年生でした。そのあと、高砂市内各地で子ども食堂が立ち上がった時に、その子どもが来てくれまして、素直に育っていたのでよかったなあとは思ったのですが、その時はやはりショックでしたね。</p> <p>先程、別の委員からもあったように、すごく「親」というもの、「親の考え方」というものが、子どもたちの環境に大きく影響すると感じています。親が「この子嫌い」って言って、つんとしてしまうケース、或いはその親の恋愛事情で左右されている子どもの状況が見えるのが、学童保育の現場かなと思っています。</p> <p>日々子どもたちが生活する学童保育所においては、他の子と何も変わらないということを感じてますけども、やはり子どもたちの自己肯定感という部分は切迫しているのではないかと思います。何人か、「死にたい死にたい」という言葉を口に出す子ども、「どうせ僕なんか」、「どうせ」という言葉をすごく頻繁に使う子がいるというのは、日々の中で感じるのかなと思います。以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>色々子どもの心の問題というのがクローズアップされてるのですけれども、他に、今言っていた内容のお話を聞いて、何かご質問や意見などございますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>本当に丁寧な聞き取り調査をされて、実態を的確に把握した上で、次の施策につないでいただけたらなと。現状、嬉しい状況ではないのですが、そのようにされていることを嬉しく受けとめさせていただきました。</p> <p>それぞれヒアリングにご協力くださった機関の方たちのお話も今お聞きしながら、一つ思ったことがございます。</p> <p>確かに、お迎えが邪魔だからやめさせるとか、お金がないのではなく、金銭感覚に問</p>

<p>委員長</p>	<p>題あるのだと思ったら、ついつい私たちって、親のことを温かく受けとめることができなくなってしまふ。子どもを大事にすればするほど、そういう親たちって駄目だ、と言いたくなる自分もいるんです。ですが何故その親御さんたちが、そうした状況になったのだろうかと考えましたら、連鎖の話がありましたけれども、子どもたちに連鎖していくということで、親世代もきっと、小さな頃の育ってきた環境の中で不十分なところがあって、温かく育つことができなくて、今の姿になっているのかなと思うのです。そうすると、何か「正しい子育て」というものがこの世の中にあって、その「正しさ」からあなた達を見たらおかしい、と言いたくなるのですが、それは違うのだろうなと思うんです。</p> <p>妊婦健診を受けないで子どもをお生みになった方達の調査をした経験からお話をすると、「どうして妊婦研修受けなかったのか」と聞いたら、「お金がなかったから」とお答えされる方が、実はブランドのパジャマを着ていて、スマホを持っていてというふうなことがあるんですよ。その時に、「お金あるじゃないか」と言ったらもうその後つながれない。その人にとっては、妊婦健診を受けるお金がなかったということであって、そこに対して「そうだよね」と言うところから、支援は繋がっていかねばならない、ということ強く感じました。</p> <p>ヒアリングの中でも支援の難しさ、人と違ったらもう全く関係がとれなくなってしまう、と。その支援の難しさを私たちはどう超えていくのかなと思った時に、正しい物差しをふりかざすのではなくて、その人たちの側へ、と言っても絶対に同じように近づくことは難しいんですけども、こちらから物を見るんじゃなくて向こう側から、この世界がどう見えてるんだろう、と。そんなふうにきっと繋がっていかねばならないと思うのです。</p> <p>ヒアリングによるそれぞれ実践の場からのお言葉から、そういったこと考えさせていただきました。改めて、正しいものを押し付けてはいけない、しんどい状況にある親御さんの側から考えていくことによって、子どもを真ん中に置いて、繋がりながら子育ての応援ができるのだろうな、と思いました。</p> <p>心揺さぶられる報告でしたので、長くお話してしまいました。ありがとうございます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
------------	---

<p>委員</p>	<p>郵送による紙面調査を行った後に、今度直接聞き取り調査されたということが、「地に足ついた」と言いますか、本当に子どもの状況を見極めたり、良い繋がりができたということはありがたいなと思っています。</p> <p>一点、先程のお迎えが邪魔、いうところに私はすごくドキッとしました。と言うのは、恐らくお子さんがそのようにおっしゃっているのしょうから、お迎えが邪魔と言った親御さんに対しては、多分印象通りだと思うんですけども、例えば私も夜遅くなってお迎えに行けないときがあります。17時であれば子どもが自分で家へ帰れるけども、17時を過ぎると保護者が迎えに行かなければならない、となった時には、私が帰るのが19時か19時半という時もありますので、「お迎えは行けない」と言ったことが、子どもを通じて学童へそういう風に伝わることもあるかもしれないと思います。また、そういった家庭に逆に何か方法がないのかな、とも思います。</p> <p>恐らく、先程のお話に関しては印象の通りだと思うんですけども、中にはお迎えに行けないから預けられないご家庭もあって、そうした家庭こそ実は支援が必要だったり、お子さんが必要としていたりしますので、サポート、サービスか何かがあるとすごく助かる子どもたちや親御さんもいるのかなと思いました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>そうした支援が、高砂市の支援対策の中にはございますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>学童保育のお迎えということだけで答えると、もともと18時までだったお迎えを19時までの延長という形で対応をさせていただいています。19時以降でないとお迎えにいけないという連絡があれば、本来はいけないのですが、保護者の方が迎えに来られるまで子どもと一緒に待っています。</p> <p>お迎えにつきましては、ファミリー・サポート・センターと連携しておりまして、学童の入所説明会にファミリー・サポート・センターの方に来ていただいて、制度の説明をしていただき、そのまま利用登録をしてもらえそうな形をとっています。日常にお迎えが遅いご家庭については、ファミリー・サポート・センターの方にお迎えに来ていただけるんですよとご案内するなど、フォローはさせていただいております。</p>
<p>委員長</p>	<p>様々な機関が連携をとっている状況で、有難いなと思います。</p> <p>まず学校が子供をよく見る機会が多いと思うのですが、それだけでは解決しないこと</p>

	<p>が多くなってきているということで、様々な機関が連携をとり合わないと、一つの問題が解決していかない状況でございますので、その辺を今後どのように支援をしていくかというのが、行政に求められる課題になっていくと思います。</p> <p>ヒアリングの内容がこういうものであって、どこに軸を置いたらいいのか、貧困というものをどのようにとらえていくのか、という指標がはっきりしていくと明確になっていくのかな、と思います。そして、やはり子どもの心ですね。大学、短大生の保育の学生を見ているわけですけど、授業中に制作などしましたら、消しゴムのかすが残るんですよ。それをパツパと払うのです。「それは集めてごみ箱に捨てましょうね」と伝えるわけです。1年生でしたらいいのですけれども、3年生にもなってそれを言うと、もうこちらも疲れてしまいます。そしたら、「掃除の方がするのが仕事でしょ」と返してきたのです。「心が育っていない」ということを、本人は気付いていなかったみたいです。その時に私が「はあ」とため息をしていたようで、その後のレポート課題で、「先生である私がこんな思いをしてるんだ」ということに気づいたと書いてきたんです。普段表面では良いように言うんだけど、咄嗟に何かそういったところが育っていない学生もいるんですね。「教育」というのは、気付かせる機会であって、そしてまた前に進んでいくことの繰り返しなのですよね。</p> <p>ですから、ここまでできているなと思っても、子育てもそうですけれども、どれが正しくてどれが正しくないかということを試行錯誤しながら、毎日、子育てをしている状況ですので、良くない結果として子どもが問題行動を起こすようになっていく、保護者の家庭環境がすごく複雑で問題があるような状況で、これからは地域で補っていた部分がなかなかもう疎遠になってきておりますね。ですから、行きやすい支援の窓口が必要になってきているんだなど、つくづく感じさせられるようなことだと思いました。</p> <p>ありがとうございました。他に何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>その他についてですけれども事務局から何かありますでしょうか。</p> <p>(3) その他</p> <p>【事務局、子ども・子育て・若者支援プランの今後について説明】</p> <p>委員長 本日の会議は以上ですけれども、他にご意見ございませんでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは以上をもちまして、令和4年度第2回高砂市子ども・子育て・若者会議を終</p>
--	--

事務局	<p>了します。本日はありがとうございました。</p> <p>委員長並びに委員の皆様、ありがとうございました。</p> <p>これにて閉会とさせていただきます。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>
-----	--